

平成28年(2016年)9月23日

於. 水道部第2別館 研修室

議事録(大要)

【出席者】北詰委員、近藤委員、原委員、松田委員、太田委員、亀山委員、栢委員、高橋委員、名越委員、橋本委員、濱田委員、藤木委員、吉田委員

【欠席者】木田委員、久保委員

【傍聴者】なし

議事

第1部

1. マスタープランにおける泉浄水所と千里浄水池の位置づけ
2. その他

第2部

施設見学

事務局 ただいまより第11次水道事業経営審議会第2回の会議をご開催いただきありがとうございます。

本日はあらかじめ、木田委員、久保委員より欠席のご連絡をいただいております。なお本日の傍聴希望者はございません。それでは会長、議事の進行をよろしくお願いいたします。

会長 第11次2回目ということで実質的な審議会の議論となりますが、今日は施設見学もごございます。水は皆さんの命や生活を守るためのものがございます。我々は水道事業について経営的な側面から審議をするという役目がございます。引き続いて委員になられた方もそうですが、今回新しく委員になられた方におかれましては、これまで培ってこられたご見識をもとに忌憚ないご意見をいただきまして有意義な形での審議会にしていきたいと思っておりますので皆様よろしくお願いいたします。本日はマスタープラン自体の説明からさせていただきます。これが吹田市の水道事業を総括的に理解をするひとつのポイントかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

その後、第2部として実際にいくつかの施設を見ていただいて水道事業とはこういうことをやっているのだなという知識を深めていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

では、管理者からご挨拶をよろしくお願いいたします。

管理者 (挨拶)

会長 ありがとうございます。では議事に入りたいと思っております。最初に、水道事業の現状についてということでマスタープランにおける泉浄水所と千里浄水池の位置づけについてご説明いただ

きたいと思います。

事務局（説明）

会長 ありがとうございます。水道部がこれから予定している大きな事業の一つと、周辺の事業体との連携事業による活動について説明していただきました。何か質問はございませんでしょうか。

委員 2点ほどお伺いしたいと思います。ひとつは資料1の中で、泉浄水所及び千里浄水池の位置づけに関する方針として「淀川水源は自ら処理するのではなく、スケールメリットをいかし企業団水に依存する」とありますが意味がよくわからなかった点と、片山浄水所に深井戸を掘ることによって地盤沈下の心配はないのかという点です。

事務局 ありがとうございます。1点目のスケールメリットをいかし企業団水に依存するというこの意味合いですが、現在、私どもでは総配水量のうち25パーセントは淀川表流水を取って処理しています。その25パーセントを企業団に任せてしまうということを考えています。自分のところで浄水処理をするのではなく、より大きな施設で大量の水を作っている企業団にこの部分を依存するということです。そして自己水として他に18パーセントある地下水を充実させていく事を考えています。

もうひとつの、片山浄水所に2本の井戸を掘ることによる地盤沈下は大丈夫なのかという点ですが、井戸を掘るにあたっては水脈調査というものを実施し、片山水源がどれくらいあるのか調査をしております。その結果、片山浄水所水処理施設更新工事の概要として資料にも書いておりますように、浄水能力は1日あたり12,750立方メートルとなっています。これが適正な水量ということになりまして、この水量を適正にとっていく事で地盤沈下の心配はございませんし、水源が枯渇することもしませんのでご理解いただきたいと思います。と思っております。

管理者 少し補足をさせていただきます。吹田の水道水は何を元に作られているのかということがございます。市民の皆様にお配りしております水の6割は大阪広域水道企業団が淀川の水から作った水道水を買っております。つまり、大阪広域水道企業団は水の卸売業をしているわけでございます。府下では100パーセント企業団の水を受水している団体もあります。吹田の場合は6割が企業団の水を買ってそのまま北部地域の方にお配りしている状況です。あとの4割は淀川の表流水と地下水をそれぞれ自己処理をしてお配りをしています。淀川の表流水はここ泉浄水所で処理をしております。地下水については現在、泉浄水所と片山浄水所で処理をしております。先ほど事務局が申しましたのは企業団が水を作って売ってくれているのだから、吹田市水道部がいつまでも自己処理をして作らなくてもいいのではないのかという趣旨を申した訳でございます。

委員 よくわかりました。ありがとうございます。

会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

委員 大阪広域水道企業団の幹線の二重化の工事についてお聞きします。吹田市の竹見台の北側

の上新田あたりでの工事ですが、南側に下りてきて豊中の寺内方面に下りていくもので片山や泉との関連が分かりません。

事務局 千里幹線の二重化と片山浄水所、泉浄水所との関連についてですが、千里浄水池から南に降りて企業団の送水管であります千里幹線が通っております。片山浄水所や泉浄水所から水を供給している市の南部区域は主に自己水を融通しながら送っておりますので、あまり企業団の水に依存していない状況です。ただ、現在、この千里幹線の桃山台の少し下の部分から南部拠点の片山浄水所まで通っている送水管がございます。現況では自己水をメインにしておりますので、太い管が通っている訳ではありません。このため、ゆくゆくはこちらの方をもっと充実させて、さらに企業団水をとれるように太い水道管を入れる必要があると思っています。

会長 それでは、施設見学のお時間になりましたので、質問は見学の際に伺いたいと思います。その他の事項がありましたらお願いいたします。

事務局 (連絡事項、施設見学の行程を説明)

会長 では、これで第1部の終わりとさせていただきます。

第2部 施設見学

泉浄水所

千里浄水池 (大阪広域水道企業団)

片山浄水所 (車中より見学)